

10月27日～11月9日は、 第75回「読書週間」です！

今年の標語は、「最後の頁を閉じた 違う私があった」



終戦の2年後の1947(昭和22)年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。

それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。今年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもらうきっかけとなることを願っています。

今月の暮らしの情報誌 広報みのかもに
特集記事「そうだ 図書館行こう! -Go To Library-」が掲載されています。

読書週間 2021関連企画

■ 第1回 中央図書館“推し本”総選挙

図書館スタッフが選んだおすすめ本とその理由を展示し、来館者の投票で中央図書館の“推し本”を決定します。

【とき】10月26日(火)～11月10日(水)
【ところ】中央図書館 【対象】どなたでも

■ あなたの“推し本”教えてください

図書館利用者から、おすすめの本とその紹介文を募集し、館内に掲示して紹介します。

【とき】10月26日(火)～11月10日(水)
【ところ】中央図書館 【対象】どなたでも 【参加料】無料
【申込】11月10日(水)までの期間中に、中央図書館で配布している応募用紙に必要事項を記入して、直接中央図書館まで

期限までの図書館資料の返却にご協力ください。

図書館資料の貸出期間は、本が15日以内、視聴覚資料(CDやDVDなど)は8日以内、複写絵画は、30日以内となっています。

次に借りたい人の予約が入っていることもありますので、返却期限をお守りいただくようご協力ください。なお、返却期限は、貸出時にお渡しするレシートで確認することができます。

こんな本 読みました！

東図書館 としょかんまつり2021
7/31、8/1「図書館司書体験」に参加してくれた子たち
からのオススメ本です



『桜の木の見える場所』

著者 パオラ・ペレットティ
訳者 関口 英子
出版者 小学館



児童 K973ペ

主人公のマファルダは、目にきりのようなものがかり、周りがみえなくなる病気にかかってしまいます。その病気にかかってから、学校にいくとき、学校の校庭にさいている桜の木がみえたところから校門までどれくらいかかるかはわかりますが、その長さがじょじょに短くなっていきます。その病気の中で周りの人に支えられて育っていく話です。ぜひ手にとってみてください。

大野 杏奈さん のおすすめ本

『本好きの下克上:第1部[1]』

～司書になるためには手段を選んで
いられません 兵士の娘 1～』

著者 香月 美夜
出版者 TOブックス



一般 Nカズ1-1

主人公の本が大好きな女の子は、あることで死んでしまい、ある世界の「マイン」に生まれかわってしまった。そんな中でもマインは本をよみたいといいます。でも、マインの家は、びんぼうで本というものが無い。しかも本というものをしらないし、紙やインクもない。そんなマインが本をつくらうとしたり、司書になろうとする物語です。ぜひよんでみてください。

水野 あかりさん のおすすめ本

『アベマキものがたり』

著者 山田 夕紀・長谷川 久栄
著者(絵) 北村 直美
出版者 山之上小学校



児童 K37

つかわれなくなったアベマキの木を、6年生と森林組合の人たちで学校で使うつくえをつくることになった。トラックで工場に連れていかれて、かんそうさせる部屋にいれられて、水分がなくなるまでじっとしていた。1まいのいたにされてつくえになった。さむい日にこどもたちが工場にやってきた。つるつる、すべすべの机に生まれかわった。

山田 梓織さん のおすすめ本

『日本の歴史8』

天下統一の戦い安土桃山時代』

監修 山本 博文
出版社 KADOKAWA



児童 K21

日本で昔どのようなことがおきたのかを光秀の死までのこととともに、たくさん知ることができます。また、三成の死のあとせきヶ原の戦いに勝利した家康は、1603年征夷(せいゐ)大將軍となる。そして家康が江戸に幕府をひらくことになり、長くつづく徳川じだいがまくを開ける話です。信長と秀吉がどのように戦国じだいを終わらせたのかもポイントの一つです。ぜひよんでみてください!!

田口 結菜さん のおすすめ本